

日本線虫学会ニュース

Japan Nematology News

目次

◆足下を確認して次の一步を！(近藤栄造)	1
◆事務局から	
2001-2002年度役員選挙結果	3
2001-2002年度日本線虫学会事務局体制、会計監査および選挙管理委員	3
学会事務局移転のお知らせ	4
編集事務局移転のお知らせ	4
臨時会員動静	4
◆2001年度日本線虫学会大会(第9回大会)のお知らせ	7
◆記事	
第45回応用動物昆虫学会大会参加(山中 聡)	11
日本滞在の思い出(ミゲル・タラベラ)	11

足下を確認して次の一步を！

近藤栄造(佐賀大学)

1. はじめに

20世紀から21世紀に変わって、約半年が過ぎました。心配されたコンピュータの誤作動もなく、平穩無事に新世紀の諸活動が行われている、と書きたいところですが、そうは書けないのが辛いところ。社会状況は大きく・厳しく変わってきています。日本線虫学会を取り巻く状況も例外ではありません。農林水産省の試験研究機関は独立行政法人へ移行し、国立大学はその存在意義を「評価」され、企業は従来にも増した厳しさに直面・・・といった具合。このような時期に、本学会の会長に選出され、ちょっとどころか、大いに戸惑っています。

2. 学会活動の過去と今

これからの日本線虫学会をどうするか。「これは」という名案・妙案はありません。こんな時は、過去に学び、現実を直視することが必要といます。恰好をつけて言えば、21世紀の日本線虫学会をどうするか、ということ。ですから、今までの活動を振り返ってみるのも、満更無駄ではない気がします。

学会とは、そもそも何か。改めて「広辞苑」を引いてみると、「学者相互の連絡、研究の促進、知識・情報の交換、学術の振興を図る協議などの事業を遂行する為に組織する団体」と記されています。いかにも固い定義ですが、要は、「同学の士」の任意団体が学会です。自らの興味・関心と必要性に基づいて、自主的に参加する組織です。

学会は、間違いなく社会的存在ですが、

第一義的には、学会会員のものです。学会役員は、学会会員のためにどれほどのサービスを提供できるかを考え、実行するのが役目です。問題は、ボランティア精神によって学会運営は支えられているということ。学会運営に関わる職務は「本業」への上乗せです。今の時代、多忙な時間を割いてその任にあたるのは、率直に言って、容易ではありません。

世紀の変わり目でもありますから、ここで、そのような任を担ってきた人々のおさらいしておきます。学会活動は、全ての会員の相互協力になって成り立つものではありませんが、ここでは、便宜的に、1971年～1992年度の「日本線虫研究会」と、1993年度以降の「日本線虫学会」の会長、幹事長、研究会誌・学会誌編集委員長に限

表1. 歴代の会長、幹事長、編集委員長

年度	会長	幹事長	編集委員長
(日本線虫研究会：1971年～1992年)			
1971-72	弥富喜三	一戸 稔	西澤 務
1973-74	高木信一	一戸 稔	西澤 務
1975-76	近藤鶴彦	一戸 稔	西澤 務
1977-78	渋谷正健	西澤 務	高木信一
1979-80	河村貞之助	西澤 務	高木信一
1981-82	高木信一	西澤 務	後藤 昭
1983-84	一戸 稔	西澤 務	後藤 昭 真宮靖治
1985-86	一戸 稔	西澤 務	大島康臣
1987-88	一戸 稔	西澤 務	大島康臣
1989-90	西澤 務	大島康臣	中園和年
1991-92	中園和年	皆川 望	石橋信義
(日本線虫学会：1993年～)			
1993-94	石橋信義	皆川 望	清原友也
1995-96	石橋信義	清水 啓	皆川 望
1997-98	真宮靖治	清水 啓	皆川 望
99-2000	真宮靖治	水久保隆之	近藤栄造
2001-02	近藤栄造	佐野善一	小倉信夫

って、そのリストを以下に示します。

さて、あなたは、何人の名前と顔が合いますか。もし、多くの会員が「合う」とのお答えであれば、我が国における「線虫に関する試験・研究」の歴史や苦労を理解している人が多いことになります。これからの学会を考える上で、心強い限りです。しかし、このことは同時に、学会会員の更新代謝が進んでいないことを意味します。これとは逆に、最近の学会役員しか知らない、という会員が多ければ、新しい会員の増加を意味します。新しい考え方・研究方法論が学会活動に傾注されることになります。学会発展の可能性は、大です。

事實は、どうでしょうか。日本の人口構成がそうであるように、線虫学会会員の年齢構成は「逆ピラミッド型」または「底辺が狭い鼓型」に近いのではないのでしょうか。例外は、*C.エレガンス*に関する研究グループぐらい。なぜ、そうなったのか。多くの要因があると思いますが、主因は、「線虫の面白さ」や「線虫に関する試験研究の重要性」のアピール不足と、後継者養成努力の不足ではないのでしょうか。この点については、大学で働く者として、大きな責任を感じています。

3. 引継事項

真宮靖治（前）会長からは、次の事項について引継を受けています。

1) 下記の小委員会を設置し、課題の解決を図る。

- ・線虫学会の活動を広く発信するための「ホームページ編集小委員会」
- ・国外からの論文投稿促進・外国会員拡大を促進するための「英文投稿規定・英文学会規約作成小委員会」
- ・2002年に開催される第4回国際線虫学会議（FICN）のための「参加者支援対

策検討小委員会」

2) 下記の関係組織等との連携を図り、強化する。

- ・国際線虫学連合 (IFNS)
- ・日本学術会議植物防疫研究連絡委員会
- ・日本動物分類関連学会連合

3) 線虫学実験書を刊行する。

2001-2002 年度の学会役員は、上記の引継事項を実行に移すとともに、試験・研究環境の急速な変化を考慮しながら新たな課題を汲み上げ、取り組んでいくこととなります。会員の皆様からの忌憚のないご意見・ご要望を、どしどしお寄せ下さい。繰り返しになりますが、日本線虫学会は、学会会員のためのものです。

4. 今後の学会運営

「したいこと・すべきこと」と「できること」の間の溝が、年々拡大しています。

「線虫学関連学術用語集の改訂版」の発行が計画倒れになったこと等に、それが具体的に表れています。マンパワー・ウーマンパワーの不足と、それと連動した「多忙化」が大きな理由だと思います。小さな学会が抱える共通の悩みです。しかし、そのことをとやかく言っても発展的ではありません。自省を込めて言うと、「線虫学会」や「線虫研究」に対する自覚ではないか、と思います。他分野の人が聞いても「おもしろい研究」、会員各位が所属している機関等の中で「役に立つ・必要だ、と認知される試験研究」の実践が更に必要ではないでしょうか。

学会会員の協力で、日本線虫学会の活動を発展させていきましょう。

事務局から

1. 2001-2002 年度役員選挙結果

去る3月に行われた本学会会長および評議員選挙の結果は以下の通りです。

〔会長選挙〕

当選 近藤栄造 (佐賀大農)

次点 二井一禎 (京大農)

〔評議員選挙〕

当選 荒城雅昭 (農環研)

二井一禎 (京大農)

真宮靖治 (元玉川大学)

皆川 望 (農研機構)

水久保隆之 (中央農研)

三輪錠司 (中部大学)

百田洋二 (北海道農研)

小倉信夫 (森林総研)

佐野善一 (九州沖縄農研)

山中 聡 (エス・ディー・エス・ハイテック)

次点 石橋信義 (株式会社ヨコオ)

2. 2001-2002 年度

日本線虫学会事務局体制、

会計監査および選挙管理委員

評議員の承認を得て、2001-2002 年度は下記の体制で本学会を運営することになりました。なお、会計監査につきましては10月開催予定の総会に提案し、承認をいただきます。

事務局長

佐野善一 (九州沖縄農研)

会計幹事

立石 靖 (//)

庶務幹事

岩堀英晶 (//)

編集委員長

小倉信夫 (森林総研)

編集幹事

岩堀英晶 (九州沖縄農研)

申田篤彦 (北海道農研)

真宮靖治 (元玉川大学)

ニュース編集小委員会

水久保隆之（中央農研）

吉田睦浩（農環研）

線虫関係国内文献目録編集

荒城雅昭（農環研）

小坂 肇（森林総研）

会計監査

秋庭満輝（森林総研九州支場）

小牧孝一（熊本県専門技術員室）

選挙管理委員

古賀成司（熊本県防除所）

吉賀豊司（佐賀大農）

2001-2002 年度日本線虫学会誌編集委員

荒城雅昭（農環研）

Bolla, R. I.(Saint Louis Univ., MO, USA)

二井一禎（京大農）

Giblin-Davis, R. M.(Univ. Florida, FL, USA)

石橋信義（株式会社ヨコオ）

真宮靖治（元玉川大農）

三輪錠司（中部大学）

水久保隆之（中央農研）

百田洋二（北海道農研）

小倉信夫（編集委員長・森林総研）

Platzer, E. G.(Univ. Calif, Riverside, CA, USA)

佐野善一（九州沖縄農研）

白山義久（京大理）

多田 功（元九大医）

山中 聡（エヌ・ディー・エヌ・ハイテック）

3. 学会事務局移転のお知らせ

評議員の承認を得て、事務局が農業研究センター線虫害研究室内から移転しました。2001年4月から九州沖縄農業研究センター線虫制御研究室内になります。住所および電話番号は以下の通りです。

〒861-1192

熊本県菊池郡西合志町須屋2421

農業技術研究機構九州沖縄農業研究セ

ンター線虫制御研究室内

Tel: 096-242-7734

Fax: 096-249-1002

E-mail: iwahori@knaes.affrc.go.jp

会費振込先は以下の通りです。

郵便振替口座名「日本線虫学会」

郵便振替口座番号

00170-6-610102

肥後銀行須屋支店（店番号195）

代表者 佐野善一

口座番号 345505（普通）

入・退会および住所変更等の連絡は、速やかに上記事務局までお願いします。

4. 編集事務局移転のお知らせ

2001年5月から、日本線虫学会誌の編集事務局が、佐賀大学農学部から森林総合研究所に変わりました。会誌への投稿論文は下記の会誌編集事務局宛にお送り下さい。会員の皆様の積極的な投稿をお願いいたします。

〒305-8687

茨城県稲敷郡茎崎町松の里1

森林総合研究所森林微生物研究領域内

日本線虫学会誌編集事務局

Tel: 0298-73-3211

(ext. 407 or 429)

Fax: 0298-73-1543

5. 臨時会員動静

ご存じの方も多いと思いますが、国立の研究機関の多くが平成13年4月1日より独立行政法人化されました。これに伴いほとんどの組織の名称が変更され、一部所在地や電話番号が変更されたところもありました。本来であれば会員動静は会誌で行うものですが、少しでも早く皆様にお知らせした方がよいのではないかと事務局で判断しまして、この場を借りて臨時に会員動

静を行うことにいたしました。お役に立てていただければ幸いです（変更のあった項目についてのみ表示しています）。また、前回の会員名簿作成以降の新入会員，勤務先変更，退会者につきましても併せて掲載しました。

（独立行政法人化による所属名称等の変更）

相場 聡

中央農業総合研究センター虫害防除部
線虫害研究室

相川拓也

森林総合研究所森林微生物研究領域
森林病理研究室

秋庭満輝

森林総合研究所九州支所
森林微生物管理研究グループ

荒城雅昭

農業環境技術研究所
線虫・小動物ユニット
〒305-8604 茨城県つくば市観音台 3-1-3
TEL：0298-38-8269

濱口京子

森林総合研究所森林昆虫研究領域
昆虫管理研究室

今田 準

果樹研究所生産環境部病原機能研究室

伊藤賢治

中央農業総合研究センター虫害防除部
線虫害研究室

岩堀英晶

九州沖縄農業研究センター
地域基盤研究部線虫制御研究室

カーン，ザカウラー

農業環境技術研究所
線虫・小動物ユニット
〒305-8604 茨城県つくば市観音台 3-1-3
TEL：0298-38-8269

小坂 肇

森林総合研究所森林微生物研究領域
森林病理研究室

串田篤彦

北海道農業研究センター生産環境部
線虫研究室

前原紀敏

森林総合研究所森林昆虫研究領域
昆虫管理研究室

松尾和之

国際農林水産業研究センター生産環境部
研究室 No.2
〒305-8686 茨城県つくば市大わし 1-1

水久保隆之

中央農業総合研究センター虫害防除部
線虫害研究室

百田洋二

北海道農業研究センター生産環境部
線虫研究室

奈良部 孝

北海道農業研究センター畑作研究部
環境制御研究チーム

小倉信夫

森林総合研究所森林微生物研究領域
病害制御チーム

岡田浩明

東北農業研究センター畑地利用部畑
病虫害研究室

酒井真次

東北農業研究センター作物機能開発部

境 哲文

東北農業研究センター水田利用部
大豆育種研究室

佐野善一

九州沖縄農業研究センター
地域基盤研究部線虫制御研究室

菅原幸哉

畜産草地研究所飼料生産管理部
病害制御研究室

平 詔亨

動物衛生研究所感染症研究部

立石 靖

九州農業研究センター地域基盤研究部
線虫制御研究室

植原健人

北海道農業研究センター生産環境部

線虫研究室
浦上敦子
野菜茶業研究所葉根菜研究部
生産システム研究チーム
山田 盾
国際農林水産業研究センター生産環境部
研究室 No.2
〒305-8686 茨城県つくば市大わし 1-1
吉田 睦浩
農業環境技術研究所
線虫・小動物ユニット
〒305-8604 茨城県つくば市観音台 3-1-3
TEL : 0298-38-8269
(新入会員)
彌富照皇
千代工業(株)微生物研究開発課
〒869-0416 熊本県宇土市松山町 4135
TEL : 096-211-7870
吉住 玲
名城大学農学ハイテクリサーチセンター
〒468-8502 愛知県名古屋市天白区
塩釜口 1 丁目 501
TEL : 052-832-1151(3672)
(勤務先変更)
千代西尾伊彦
退職
橋本直樹
北海道立中央農業試験場岩見沢試験地
クリーン農業部総合防除科
〒069-0365 北海道岩見沢市上幌向町
217
TEL : 0126-26-1518
廣瀬茂樹
塩野義製薬(株)植物薬品開発部
〒069-0365 滋賀県甲賀郡甲賀町
大字五反田 1415
TEL : 0748-88-3281
兼平 修
北海道立花・野菜技術センター
〒073-0026 北海道滝川市東滝川 735
川田弘志

保土ヶ谷アグロス(株)
〒103-0000 東京都中央区東日本橋 1-1-7
TEL : 03-5687-3929
川口昭久
菱商農材(株)大阪支店
〒541-0052 大阪府大阪市中央区
安土町 2-5-5 本町明大ビル 4F
TEL : 06-4705-5523
古賀正崇
九州大学大学院医学研究院病態医学微生物・免疫学講座寄生虫学分野
〒812-0054 福岡県福岡市東区馬出 3-1-1
TEL : 092-642-6117
黒田慶子
森林総合研究所関西支所
生物被害解析グループ
〒612-0855 京都府京都市伏見区桃山町
永井久太郎官有地
TEL : 075-611-1201
真宮靖治
退職
松永禎史
サンケイ化学(株) 研究開発本部
〒891-0122 鹿児島県南栄 2 丁目 9 番
TEL : 099-268-7588
松浦邦昭
森林総合研究所企画調整部
〒303-8687 茨城県稲敷郡茎崎町松の里 1
TEL : 0298-73-3211
松崎征美
退職
皆川 望
農業技術研究機構総合企画調整部
企画調整室
〒305-8517 茨城県つくば市観音台 3-1-1
TEL : 0298-38-7699
永木 壽
名古屋植物防疫所四日市出張所
〒510-0051 三重県四日市市千歳町 5-1
四日市港湾合同庁舎内
TEL : 0593-52-3896
中西喜徳

奈良県茶業振興センター
〒630-2166 奈良県奈良市矢田原町乙
470-1
TEL : 0742-81-0019

中澤和則

退職

西澤 務

退職

小野寺和英

宮城県産業経済部農業振興課
専門技術員(病害虫担当)
〒989-6227 宮城県仙台市青葉区本町
3-8-1
TEL : 022-211-2833

清水 啓

国際協力事業団パラグアイ農業試験場
(CETAPAR JICA)
Distrito Yguazu, Ruta 7, Km.45, Dpto de
Alto Parana, Paraguay
TEL : +595-632-20210

庄司次男

退職

多田 功

退職

竹内寛興

退職

寺本 健

長崎県病害虫防除所
〒854-0062 長崎県諫早市小船越町 3170
TEL : 0957-26-0027

樋田幸夫

国際農林水産業研究センター企画調整部
研究交流科
〒305-8686 茨城県つくば市大わし 1-1
TEL : 0298-38-6336

津田 格

岐阜県立森林文化アカデミー里山分野
〒501-3714 岐阜県美濃市曾代 88
TEL : 0575-35-2525

牛山欽司

退職

山崎 浩

旭川医科大学寄生虫学研究室
〒078-8510 北海道旭川市緑ヶ丘東 2 条
1-1-1
TEL : 0166-68-2421

(退会)

長谷川 誠/石井頼治/峰尾一彦/佐々木
和則/白石 隆/白岩信二/平 正博

2001 年度日本線虫学会大会 (第 9 回大会) のお知らせ

2001 年度大会を下記の通り熊本市で開
催いたします。

ご承知のように、熊本は農業県で、全国
一位のスイカや売り出し中のカライモ(サ
ツマイモ)など様々な作物が栽培されてい
ます。しかし、一方では深刻な線虫害を抱
え、農家も試験場も線虫対策に追われてい
ます。そこでシンポジウムでは、こうした
線虫対策に重要なレースの問題を取り上げ
ました。また、エクスカージョンは、今具
体的なコースを詰めている段階ですが、施
設栽培やカンショ作を中心に現地の取り組
みを紹介する予定です。会場に選んだ熊本
市国際交流会館は、熊本城の正面にあり、
200 名は余裕です。多数の会員のご参加を
お待ちしております。なお、熊本には、市内
の熊本城や水前寺公園をはじめ、阿蘇や天
草など、観光スポットにも事欠きません。
この機会にぜひご来遊下さい。

1. 大会事務局

〒861-1192

熊本県菊池郡西合志町須屋 2 4 2 1

農業技術研究機構九州沖縄農業研究セ
ンター線虫制御研究室 佐野善一

Tel : 096-242-7734

Fax : 096-249-1002

E-mail : sanoz@knaes.affrc.go.jp

2. 日程

2001年10月18日

13:00~14:00 総会

14:00~17:30 一般講演

18:00~20:00 懇親会

2001年10月19日

9:00~12:00 シンポジウム

「植物寄生性線虫レース研究の現状と課題」

シストセンチュウレースの現状と課題

(仮題) 相場 聡

ネグサレセンチュウレースの現状と課題

(仮題) 水久保隆之

ネコブセンチュウレースの現状と課題

(仮題)

トマトをめぐって 奈良部 孝

サツマイモをめぐって 佐野善一

総合討論

コメンテーター 百田洋二

13:00~17:00 一般講演

2001年10月20日

8:00~15:00 エクスカーション

(見学コース等の詳細は次号で連絡、
バス1台を予約済みで、15:00~16:00
に熊本空港と熊本駅着の予定)

3. 会場

1) 大会：熊本市国際交流会館
(熊本城正面入り口手前)

〒860-0806

熊本市花畑町4-8

Tel: 096-359-2020

2) 懇親会：チサンホテル熊本

4. 参加費

大会参加費：

一般2,000円、学生1,000円

懇親会費：6,000円

エクスカーション：3,000円

(バス代および昼食代を含む)

5. 参加および講演申し込み

大会参加および講演を希望される方は、2001年8月31日(消印有効)までに参加費を添えて大会事務局までお申し込み下さい。送金は、郵便振替(口座名：日本線虫学会9大会、口座番号01740-6-91880)振込用紙の通信欄に、講演の有無、エクスカーション、懇親会参加の有無をお書き添下さい。

6. 講演発表

講演は一人1題とし、本会会員に限ります。講演時間は討論時間を含めて一人15分を予定しています。講演には35mmスライド(講演1題につき10枚以内)あるいはOHPを使用してください。スライドには、光源側に、講演番号、演者名、挿入方向矢印(または赤線)、映写番号をご記入ください。

映写順序



7. 講演要旨の作成

講演要旨は、2001年8月末日までに大会事務局、九州沖縄農研セ線虫制御研究室にお送り下さい。講演要旨は、B5判横書き、1行45字、全体700字以内を目安に作成してください。要旨には1行目から日本語で演者名、続けて括弧()内に所属、一文字空けて上記の事項の英文表記を続けて

記載してください。本文は行を改めにて次の行から書いて下さい。上下左右の余白を2.5cmとして下さい。講演要旨集は送られた要旨をダイレクトプリントします。なお、メールによる送付を大いに歓迎します。その場合は、一太郎またはwordによる作成をお願いします。講演要旨集は大会時に参加者に配布するとともに、日本線虫学会

誌31巻に掲載します。

8. プログラム

大会プログラムは本年9月発行予定のニュース24号に掲載します。

9. 宿泊

宿泊施設の斡旋はいたしません。宿泊案内を掲載しましたので、各自手配をお願いします。



ホテル案内図

会場へのアクセス

JR熊本駅より：バス「熊本交通センター」下車（約15分 130円）、または市電「熊本城前」下車（約15分 150円）

熊本空港より：バス「熊本交通センター」下車（約60分 670円）、またはタクシー（約45分 約5,000円）

JR博多駅または福岡空港より：高速バスひのくに号「熊本交通センター」下車（約2時間 2,000円）
熊本交通センターより徒歩約300m。市電「熊本城前」より徒歩約150m。

宿泊案内

地区 番号	ホテル名 (地図番号と照合)	上段：電話(096) 下段：住所 熊本市	1泊料金(室数) (料金は変わることがあります)
①	講演会場 熊本市国際交流会館	359-2020 花畑町 4-8	
②	懇親会場 チサンホテル熊本	322-3911 辛島町 4-39	S 7,100(100) T12,500(12) (税別) 駐車場 30台 1,000円
③	熊本グリーンホテル	325-2222 花畑町 12-11	S 6,615(76) T 10,500~12,600(7) (込) 駐車場なし
④	熊本東急イン	322-0109 新市街 7-25	S 7,500(38) T 10,300(44) (別) 駐車場 6台 1,000円
⑤	ホテルサンルート熊本	322-2211 下通 1-7-18	S 6,930(22) ; 7,850(45) T 12,705(9) ; 15,015(6) (込) 駐車場 30台 1,000円 ハイルーフ車ダメ
⑥	熊本交通センターホテル	354-1111 桜町 3-10	S 7,500(30) ; T 13,000(12) ; 14,000(18) ; 15,000(12) (別) 駐車場 625台 700円
⑦	KKR熊本 (国家公務員共済)	355-0121 千葉城町 3-31	国S 5,500(11) T 11,500(39) 他S 6,500(11) T 14,400(39) (別) 駐車場 70台 500円
⑧	熊本ロイヤルホテル	325-0111 辛島町 67-1	S 6,510(90) T 12,600(込) 駐車場 30台 500円
⑨	熊本ワシントンホテルプラザ	355-0410 下通 2-3-10	S 6,235~7,620(320) (別) T 13,854~15,152(10) (別) 駐車場 60台 1,000円
⑩	熊本ホテルキャッスル	326-3311 城東町 4-2	S 8,900(41) ; 12,500(31) ; T 16,000(34) ; 20,100(35) (別) 駐車場 72台 900円
⑪	ホテルオークス	322-1711 上通 6-8	S 6,500(9) T 12,000(23) (別) 駐車場 96台 1,000円
⑫	アークホテル熊本	351-2222 城東町 5-16	S 8,000(171) T 14,500(38) (別) 駐車場 46台 900円
⑬	ビジネスホテルニュータジリ	354-0670 上林町 1-41	S 5,250(49) T 8,400(3) (込) 駐車場 30台 800円
⑭	メルパルク熊本	355-6311 水道町 15-11	S 5,775(18) T 13,167(12) (込) 駐車場 200台 500円
⑮	熊本厚生年金会館	355-3295 千葉城町 4-25	S 7,276(57) T 13,167(10) (込) 駐車場 80台 無料)

[記 事]

第 45 回応用動物昆虫学会大会参加

山中 聡

(株)エス・ティ・エス ハイテック つくば研究所)

本会員の多くがそうであるように、私どもの研究領域は線虫学ばかりでなく、応用昆虫学、生物防除、化学農業を含む IPM 等多岐にわたり、その情報入手のためには各学会への参加も重要な職務である。さらに線虫学会の運営に携わっていることから他学会における総会での討議内容も別の意味で興味深い。今回は島根県松江市（平成 13 年 3 月 31 日～4 月 2 日）で行われた表記の報告を記述した。

学会運営・学会誌発行に関して

我々とスケールは違うが、応動昆でも会員数の伸び悩みが一つの問題となっており、本年 1 月から正会員以外に学生会員、海外会員の制度が施行された。学生会員は本学会と同様の扱いであり、一方、海外会員は正会員と同条件であるが、会誌発送に別途送料（年 2,000 円）が必要である。学会賞に関しても新たに規定を改正して、40 歳未満の研究者を対象に奨励賞を設置した。

一方、会誌発行においても、他誌への投稿を抑制するための施策がいくつか実施されている。即ち編集委員の増加、英文校閲料の無料化、英文レフェリーの複数化、カラーページ自己負担軽減などであり、発行の迅速化の最大は校閲時間であるが、特に早期実施を基本とし、英文レフェリーには本人投稿時に別刷が無料となる権利を与え、本人の他誌への投稿も抑制する手段も講じている。国立情報学研究所電子図書館にバックナンバーを収録し、会員にはページチャージなしで閲覧、コピー可能となっている。このような施策は当学会の運営や会誌発行の参考にもなるはずである。

線虫学に関連した話題発表について

線虫を題材にした研究は従来の線虫学の分野であるが、昆虫病原性線虫の場合応動昆の分野では生物的防除、昆虫病理、生態防除などいくつかの範疇に別れる場合がある。今回、昆虫寄生性線虫に関するの発表では佐賀大吉賀氏が生態防除の分野でスタイナーネマの宿主昆虫の生態防除の認識に関し発表をされた以外は、SDS 田辺氏、農環研吉田氏、静大伊藤氏、野菜茶試安藤氏らは線虫分野での発表であった。植物寄生性線虫の分野でも環境に影響性の少ない防除技術の確立に焦点を絞って研究が進んでいるという印象が強かった。応動昆の学会賞、奨励賞計 4 題すべてが、生物防除或いは IPM に関連する研究で、これまでの化学農業一辺倒から環境保全型農業を充分考慮した研究が基礎、応用において主流になってきているのと同じ傾向を線虫研究分野でも感じた。具体的な発表内容等については、要旨集を参照して頂きたい。

(評議員)

日本滞在の思い出

ミゲル・タラベラ（元農研センター）

私が S T A フェローとして農研センターに滞在した経験について、日本線虫学会ニュースに寄稿する機会を得うれしく思います。最初に私の経歴を少し述べ、自己紹介を致します。

私こと、ミゲル・タラベラは、この 3 月まで 2 年間、農業研究センター（当時）の線虫害研究室に、（旧）科学技術庁の S T A のフェローとして勤務しておりました。スペインのグラナダ大学生物学部を卒業し、1993 年寄生虫学で同大学から博士号を授与されました。1999 年 3 月の来日以後 2 年間は、菌根菌とパスツールアを用いた植物寄生性線虫の防除について研究を行って

きました。

この2年間には様々な思い出があり、この記事のためにどれか一つを選ぶということは難しいと感じています。研究目的で来日したつもりだったので、ビザの入国目的が「文化活動」であることに違和感がありました。もっともまもなく、日本で外国人が行うすべての行為は、「文化活動」であることが理解できましたが。毎日毎日新しい経験があり、日常生活のすべてが新しい文化、新しい社会の風習そして新しい趣向との出会いでした。

日本滞在の期間は研究面でも生活面でも楽しいものでした。一般的に、日本人は大変親切で、自分のスタイルを持ちながらも、強い責任感を持って熱心に仕事に取り組んでいました。私は、スペインの他、イギリスの線虫関係の研究室に勤めたことがありますが、農研センターの同僚たちのようによく働く研究者を見たことがありません。いつもみんなより私が早く帰るので申し訳なく思ったものです。

私は日本語を読んだり理解することができませんでしたので、言葉の問題には悩まされました。しかし、農研センターの皆様の親切によって、また妻の助けもあって（訳者註：タラベラさんは日本人の奥さんをめとられています）、この問題も、少なくとも多少のところは解消することができありがたいことでした。農研センターの皆様にはいろいろとご助力を頂き、日本語のわからない私に辛抱強くお付き合いを賜りました。おかげで日本語の線虫学関連の文献からも多くを学ぶことができました。線虫について日本語で書かれた情報量の多さには目を見張るものがあります。日本語が読めなければ、これらの情報はほんの部分的にしか利用できませんが、日本の線虫学

は一部の分野では世界をリードしていて、世界的にはそれが気付かれていないだけだと思います。

熊本や北海道の線虫研究室訪問や京都での線虫学会は今でも強く心に残っています。この他にも広島、金沢、長野、日光そして富山、色々な土地を訪ねることができました。日本の豊かで変化に富んだ風景と文化が、いつも私を手招きして再来日を促します。

すしや刺し身、天ぷらといった食べ物・・・、お花見や日本の四季、桜と秋の紅葉・・・、農研センターの圃場でのチームワーク、今スペインに帰って見ると懐かしく思われるものがたくさんあります。

日本で働き、このような忘れられない経験をやる機会を与えられたことに感謝します。そしてあわよくば、次回スペイン領カナリー諸島で開催される国際線虫学会議で日本の全ての皆様にお目にかかれることを希望します。

(Miguel Talavera, Lab. of Nematology, Department of Crop Protection, Institute of Sustainable Agriculture. CSIC)



[編集後記]

◆中央農業総合研究センター虫害防除部線虫害研究室の水久保です。佐野善一学会事務局長の依頼により、2001年度のニュース編集をお引き受けしました。実に3年ぶりのカムバックです。今後2年間、本ニュースを農業環境技術研究所の吉田睦浩氏と共に担当しますので、宜しくお願い申し上げます。なお、私儀学会事務局長在任中は本会の運営につき、真宮靖治会長を初め、会員の皆様に多大のご協力を賜りました。旧事務局幹事（奈良部孝・相場 聡・伊藤賢治）にも成り代わりまして、この場を借りて厚く御礼申し上げます。僅か3年間の任期でしたが、つくばで開催された「有用線虫の利用に関する国際シンポ」を皮切りに、神奈川、京都、つくば大会の開催につきお手伝いをさせていただきました。これらのシンポジウム・大会は、準備委員会、大会事務局の皆様の並々ならぬご尽力で実現したものであることは言うまでもありません。また、真宮靖治会長とご相談しつつ規約等改正を行いました。電子メールを用いた紙上評議会の導入、学生会員制度導入、会員の種別に伴う権利制限の緩和、従来農

業研究センターに固定されていた事務局を持ち回りできるように変えたことなどですが、一方で、会費を2倍に値上げせざるを得なかったことは誠に申し訳なく思っております。ニュースの担当は私ですが、本号の実作業は前編集責任者の荒城さんに全面的にお世話になりました。荒城さんは本会ニュースの伝統を継承するのみならず、アンテナを広く張って記事の発掘にあたられ、持ち前の細かい配慮で読みやすい記事作りに腐心されました。荒城さんが在任中に、ニュースは更に身近なものになったと確信いたします。この場を借りて荒城さんのご苦勞をねぎらいたいと存じます。線虫学会は会員の漸減、投稿数の慢性的な不足など解消が難しい問題を抱えております。世界が変化する中で、線虫学会も変わっていかねければ、閉塞的な現状は打破できません。会員の皆様にもご理解とご協力をお願い申し上げます。原稿や写真は随時受け付けています。身近な線虫の話題、諸会議の報告、学会への提案など、どのような内容でも結構ですので、下記ニュース編集小委員会までご連絡下さい。

(水久保隆之)

2001年6月6日
日本線虫学会
ニュース編集小委員会発行
編集責任者 水久保 隆之
(ニュース編集小委員会)

農業技術研究機構
中央農業総合研究センター
虫害防除部線虫害研究室
〒305-8666
茨城県つくば市観音台3-1-1
TEL : 0298-38-8839
FAX : 0298-38-8837
E-mail : mizu@narc.affrc.go.jp

日本線虫学会ニュース第23号
ニュース編集小委員会
水久保 隆之 (中央農研)
吉田 睦浩 (農環研)

入会申し込み等学会に関するお問い合わせは、学会事務局：農業技術研究機構九州沖縄農業研究センター線虫制御研究室まで

〒861-1192

熊本県本県菊池郡西合志町須屋 2421
TEL : 096-242-7734
FAX : 096-249-1002
E-mail : iwahori@knaes.affrc.go.jp